

近隣市町村の震度分布図

学校、仕事場、買い物先や親せき、知人宅の震度を確認してみましょう。

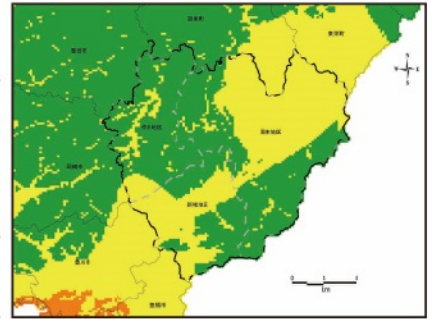
新城市とは異なる各地での影響

都市部

- ・木造建物が、密集している都市では、大規模な火災が発生しやすい。
- ・高層ビルは、上階になるほど、大きく揺れる場合がある。
- ・窓ガラス、瓦、看板が、落下してくる恐れがある。

沿岸部

- ・津波の発生により、海拔の低い場所では、浸水被害の恐れがある。



※下図は、南海トラフで想定される地震の中で「発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震」について、愛知県(平成26年5月)並びに静岡県(平成25年6月)がそれぞれ想定した震度分布図です。

※右図は、愛知県(平成26年5月)が、「過去地震最大モデル」の地震について想定した震度分布図です。

※下図内の新城市の震度分布は、愛知県で公表された震度分布を掲載しているため、裏面の「震度分布図」(新城市独自の調査をした分布図)とは震度予測が異なりますので、ご了承ください。

